

リーダーの心と人間関係

Andrea Buczynski

グローバルLDHR

リーダーシップの意味に関して、様々な意見があります：

- ・ ハワード・ヘンドリックス博士：「リーダーとは、フォロワーがいる人のことである。」
- ・ ジョン・マクスウェル：「リーダーシップとは人に影響を与えることである。」
- ・ ロバート・クリントン博士の定義：「一定期間にわたって神の方向に神の民に影響させること」
- ・ アリス・マシューズ博士の定義：「コミュニティが問題に直面するのを助け、その問題を解決するために資源を動員し獲得すること」
- ・ ウォーレン・ベニス：「真のリーダーとは、組織をビジョンやミッションの方向に向かわせないものを検証し、達成のための新しい実践策を喜んで創造する人である。」

リーダーシップとは、時間をかけて他者に一定の方向性を与えることだということにほとんどの人は同意するでしょう。リーダーシップには地位や肩書きが関係することもあります。そうでないこともよくあります。ミニストリーに携わる私たちにとって、私たちの影響力、リーダーシップ、奉仕は、神が評価するものによって支配されていることを私たちは知っています。神は、私たちが何を追い求め、どのように追い求めるべきかを説明しておられます。

霊的リーダーとして最も基本的なことは、その人の心、つまり神との関係、そしてその実がその人の品性に現れることなのです。

I. 神との関係

心 - リーダーの心の第一の特徴は、謙虚さです。

1サムエル16:7 「人はうわべを見るが、主は心を見る。」

2歴代誌16:9 「主はその御目をもって全地を隅々まで見渡し、その心をご自分と全く一つになっている人々に御力を現してくださるのです。」

イザヤ66:2 「わたしが目を留める者、それは、貧しい者、霊の砕かれた者、わたしのことばにおののく者だ。」

主が求めておられるのは、主が示されたことを何でも喜んで実行する、謙虚な心を持った人たちです。つまり、その人の神に対する心が、その人のリーダーシップの基礎となるのです。

ローマ11:28～12:8にかけて、このことがわかります。神の偉大さと善意は計り知れません。私たちの礼拝、愛、奉仕にふさわしい方は、ほかに存在しません。ですから、神様がどのようなお方であるかに対する自然な反応として、私たちは神様が私たちの心の一新によって完全に変えられることを望んで、自分自身を生きたいけにえとして捧げるのです。人生において神がどのような方であるかをすべて認めるとき、私たちは自分自身が不十分であることを認める自由を得ることができます。この謙遜は、神と他者の前で自分自身を正しく見ることができる能力です。ローマ書の後の箇所では、からだの働き、神がさまざまな人に賜物を与えたこと、そして、神が創られた方法で私たちが心から奉仕することが述べられています。私たちは誰一人として、単独で十分な者はいません。「リーダーの心」は、リーダーとして喜んでキリストの主権の下に身を置くという意志に関するものです。

¹ 聖句はすべて「新改訳2017 ©2017 新日本聖書刊行会」からの引用

ヨハネ1:14 主イエスは恵みと真理に満ち溢れておられました。私たちは恵みの中で成長しているでしょうか？ 神様がどれほど自分を愛してくださっているのか、より深く認識できるようになっているでしょうか。その愛を他の人にも広げることができますか？ 人々は、あなたが「自分たちの味方だ」と思える経験をしているでしょうか？ 真理において成長しているだろうか？ 真理を知ること、真理を語ること、真理を受け取ること...

国際CCCの副総裁であるデラ・アダデボーはこう述べました。「真理とは、単に真実を語るのではなく、人であるイエス・キリストです。私たちは真理になりつつあるでしょうか？ 私たちの人生には一貫性があるでしょうか？ 内面は外見と一致していますか？ 外見は内面と一致していますか？」

御霊の力による歩みとは、神からの贈り物であり、以下によってますます特徴づけられるものです：

1. 主が私の命の源、力の源であることを経験すること
 - a. エペソ5:18「御霊に満たされる」
 - b. 箴言3:5、6
 - c. 「ほとんどのクリスチャンは、キリストの中にしかないものを自分の中に見出そうとすることで間違いを犯す。」(アーサー・ピンク)
2. 見えるものによってではなく、信仰によって歩むこと
 - a. 2コリ5:7(結果はわからないが)
 - b. マタイ14章 ペテロは、神が働いてくださると信じて舟から降りた
3. 支配を手放すこと
 - a. ルカ22:41
 - b. ガラテヤ2:20
 - c. 2コリ5:14、15
4. 神の悲しみ-悔い改め
 - a. 2コリ7
 - b. イザヤ57:11
5. 光の中を歩むこと
 - a. 1ヨハネ 1:5-9

II. 品性と個人の資質

私たちが主と共に歩んでいるとき、キリストに留まっているとき、神との関係の実が私たちの品性に現れます。

- ・ 私は主に似た者とされているだろうか？
- ・ 私は愛と真実の両方を持っているだろうか？
- ・ 私は、御霊の実をさらに大きく発揮しているだろうか？ (『霊的リーダーシップ』の著者であるJ.オズワルド・サンダースは、90歳のとき、定期的に自分に問いかけていました。「サンダース、あなたは三か月前よりも愛に満ちた人になっているか？ もっと我慢強くなったか？」)
- ・ 品性の基本的な構成要素6つに注目しましょう：
 - 愛-人とつながり、共感し、見返りを求めずに与える。愛のある人は、人と情緒的に関わり、犠牲的に与えることができます。自分が得るためだけの関係にはいません。(1コリント13章、ローマ12:9、13、15)
 - 働き-実を結ぶ。労苦して刈り取る。自分の労苦に見合う成果が何もないと不満に思う。(2テサロニケ3:6-13; コロサイ3:23-24; ヨハネ15:16; ローマ1:13)
 - 真実とのつながり-真実を見つめ、真実を語り、自分と自分の働きについて真実を聞く。現実を生きているので、自分の体面のために真実を犠牲にする必要がない。また真実を誰かの上に立つ武器として使うこともありません。(エペソ4:15、25、ヘブル5:14、マタイ7:1-4)。
「現代は真実が曖昧になり、嘘が定着しているので、真実を愛さない限り、それを認

識することはできないだろう。』"

- パスカル『パンセ』739

- 問題に対処する-問題に直面し、その都度解決する。この人は、種まきと刈り取りを理解している。ネヘミヤとモーセは問題に直面したとき、まず主のもとに行きそして行動を起こしました(箴言も参照)。
- 成長し続ける-自分の成長に責任を持つ。成長のための材料が自分の生活の中にあることを確認する。成長する人は、他の人やムーブメントの成長にも貢献する。(2ペテロ1:3-11)
- 礼拝 - 神が自分に合わせるべきだと主張せず、神に自らを合わせる。自分よりはるかに偉大な方が支配しておられることを認識し、その主権的な支配に服従するのです。(ヨハネ14:21、ローマ12:1-2、申命記5章、マタイ22章)。

ジョージ・マクドナルド：「人は、その品性が作る以上のものには決してなれない。その人の中に最初にあったもの以上に価値あるものはその人から生まれ出ない。説教、詩、絵、本など、すべてのものの背後で支援するのは品性である。それがなければ、どれも藁にもすがるような価値しかない。」

私の心や性格の現実、他の分野にも波及しています：

- 神様が私に望んでおられることへの情熱は、必要なことは何でもやるという決意として表れます。
- 知的柔軟性-異なる視点から物事を見る能力と意欲は、謙虚さを必要とします。つまり、自分が知らないことや、自分よりも優れたアプローチがあるかもしれないことを、進んで認めることです。また、異なる種類の情報から意味を見出すことができるということでもあります。専門家だけでなく、さまざまな人たちから学ぼうとする姿勢です。
- 情緒の安定-苦難に耐え、あらゆる種類の状況において満足できる能力です。イエスの言葉(「この世ではあなたは苦難がある」)や使徒パウロの生涯を見れば、福音を聞いていない人々に福音を伝えることは、多くのストレスをもたらすことがわかるでしょう。リーダーとして人々に仕えることは、多くの問題、多くの傷に接することになるのです。出エジプト記17章のモーセをご覧ください。これは前もって予期されることなのです。

III. 聖書のメタファー

聖書は、リーダーの心を表現するために、3つの異なるワードピクチャーを使っています。それぞれの比喩は、心の姿勢を浮き彫りにしています：

- しもべ：主や他者の前での私たちの基本姿勢。イエスは弟子たちに説明された(マコ 9:33-37; 10:35-45; ヨハネ 13:1-17; 2テモ 2:24; マタ 20:20-28)。旧約聖書では、神の僕と呼ばれることは、その人が神とどのような関係であったかを示す、非常に大きな賞賛の言葉でした。モーセ、ヨシュア、ダビデ、サムエル、ヨブ、預言者たちは、このように賞賛された人たちです。パウロは自らを束縛者であると認めています。そしてこれは、CCC創立者のブライト博士が、自分の人生とすべての資源を放棄して、イエス・キリストの奴隷となったという歴史的な決断の一つとして記録されています。
- 羊飼：人を預かる者であり、人に対する私の心のあり方を表現します(ヨハネ10章、1ペテロ5:1-4)。
- 管理者：主人の資源をさらに増やすために投資する仕事を任された人(1コリント4:2、マタイ25-タラントのたとえ、ルカ16:10)。

この3つはすべて、主の前で謙遜と従順の心を必要とします。主は、私たちがより多くのことを任される前に、これらの領域で私たちに試されるでしょう。

IV. 他者との関係

リーダーの仕事は他者に影響を与えることが大きいので、その人の他者との関わり方、働き方の能力は非常に重要です。私たちの品性と情緒の発達、他者とうまく関わる能力の限界と範囲を規定します。リーダーは、アイデンティティや権威に関連する問題による個人的な荷物を最小限に抑えな

がら、同僚、上司、部下の世界の間を柔軟に行き来する能力を持たなければなりません。

対人関係スキルは、私たちの性格や感情の健康状態に左右されます。人とパートナーシップを築くには、お互いに有益な解決策、Win-Winの関係を模索することが必要です。競争や勝利への欲求が抑えられないリーダーであれば、一緒に働く人は常に自分が負けたと感じるでしょう。私たちがどのような存在であるかによって、他者とどのように関わり、どれだけ効果的に仕事を成し遂げることができるかが決まります。

「多くの場合、リーダーは身近な人と協力ではなく、競争しなければならないという間違っただけの考えを持っています。偉大なリーダーは考え方が違うのです。ジョン・F・ケネディ大統領は『Profiles in Courage』の中で、『他人と仲良くすることが一番の近道だ』と書いています。このようなポジティブな関わりは、リーダーが他者との相互依存の姿勢を持ち、Win-Winの関係に徹した場合にのみ起こり得るのです。」(Maxwell, 『Developing the Leader around You』p.6)²

リーダーが維持すべき人間関係のあり方について、重要視すべきことを紹介します：

- 私は信頼に足る人間だろうか？ 秘密を守ることができるか？ イエスと言う時はイエスと言う？
- 私は尊敬に値するか？
- 他人は私を頼りにしてくれるのか？
- 私は一緒に仕事をしやすいか？
- 自分が所属するミニストリーのニーズを代弁しつつ、他の人のニーズも聞くことができるのか。
- 自分の考えをうまく伝え、相手に理解してもらっているか。
- 私は、議論に参加することができるか？ - 議論を支配したり、議論から撤退したりしていないだろうか？
- 私は、一緒に働く人たちにどのような環境を作っているのだろうか。問題や葛藤、失敗を打ち明けても大丈夫な環境か？
- 失敗の中にあっても、他者との関係を維持できるのか。

関係性の範囲

私たちは、多くのグループやタイプの人たちと定期的に連絡を取り合っています。

パートナーシップの構築

「過去の指導者たちは、しばしば壁を築いた。今、彼らはその壁を破壊し、橋に置き換える必要がある。」(『Leader of the Future』P.91)

さしあたって、「リーダーは、ビジョンを実現するために他者と協力する方法を模索し、パートナーシップを構築するような関わり方をしなければならない」という点だけ押さえておきましょう。そのためには：

- 他者を適切に巻き込む
- 相手に敬意をもって接する
- 適切な場合には、他の人に意思決定をさせる
- 信頼できる雰囲気を作る
- 他の人に働きの当事者意識を持たせる
- 同僚、上司、部下たちと良好な関係を築くことができる

² 原文では「Developing the Leader within You」となっているが、こちらが正しい。

あなたが時間をかけて誠実さを示すことで、他の人はあなたを信頼できると思うでしょう。

「パートナーシップ」とは、ある仕事や目標を達成するために、複数の人やグループが責任をもって協力し合うことです。ネットワーク(情報の共有)とも、個人の努力とも、合併とも異なります。共通の目標、補完的な資源、相思相愛の精神を求める積極的なアプローチなのです。パートナーとの関係には3つのことが必要です: 愛 -1コリ13:4-8、無欲 -ピリピ2:1-9、そして彼らと一緒に神と共に歩むこと-ヨハネ17:20-23、ヨハネ1:39。

(スティーブダグラスからUSキャンパス地域ディレクターへ 1998年4月)

リーダーとは、神様がある領域でご自身の課題を託された人のことです。それは、まだ生まれていないものに対するビジョンであったり、情熱であったり、うまくいっていないものに対する重荷であったりします。リーダーとは、実に「執事」なのです。